

令和8年 市職員への年頭訓示

あけましておめでとうございます。

職員の皆さんにおかれては、新しい年を健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。

本年も皆さんと共に、木津川市の発展に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年12月に青森県東方沖でマグニチュード7.5の地震が発生し、気象庁及び内閣府が、同様の事象が発生する可能性がある「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を始めて発表されました。

また、2月に岩手県大船渡市での林野火災、11月には、大分市佐賀関における大規模建物火災など、全国各地で災害が発生しました。

市としては、危機管理課を中心に防災訓練や巨大地震を想定した市職員等一斉訓練を実施していますが、職員の皆さんには、改めて平時から市民の生命・財産を守ることを第一に、業務に当たって頂きますようお願いいたします。

また、お米を始め、食料品などの物価高騰が市民生活に影響を与えるなか、政府は、昨年11月に約21兆円規模の総合経済対策を閣議決定し、電気・ガス料金の補助や、18歳以下の子どもへの給付、ガソリン暫定税率廃止などの対策を実施され、12月には、重点支援地方交付金の拡充を含む、総額約2兆円規模の補正予算が成立しました。

木津川市では全市民を対象に1人6千円の現金給付を決定し、現在、給付の準備を進めていますが、出来るだけ早急に市民のお手元に届くよう各部署が連携して取り組んでいただくようお願いいたします。

来年の3月12日には、市制施行20周年の節目を迎えます。

昨年に「市制施行20周年記念事業推進本部」を設置し、記念事業の検討を進めていますが、記念事業では、市民とともに20周年をお祝いし、また、市のまちづくりに日頃からご尽力いただいている方々に対し、感謝の意を示す機会となります。

また、昨年12月19日には、史跡恭仁宮跡（山城国分寺跡）が、国の文化審議会において「特別史跡」に指定する答申を文部科学大臣になされました。

市内に有している貴重な財産を十分に生かしながら、今後30年、50年と、さらなる市の飛躍、そして、市民にとってより満足度の高いまちづくりを進めていくことの決意を新たにしていきたいと思っていますので、全庁的に取組を進めてください。

本年は、来年度は私自身、任期最後の年となります。今まさに予算編成に取り組んでいただいておりますが、私の市長としての任期4年間の総仕上げとして、『第2次木津川市総合計画後期基本計画』に掲げる、7つの基本方針に基づく重点施策を推進し、まちの将来像「子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川」の実現に向け、何より“市民目線”に立ち、“柔軟かつ的確”に、“スピード感”をもって、まちづくりを力強く進めるとともに、「木津川市デジタル田園都市構想総合戦略」に基づき、デジタル技術を活用して、地域の個性を生かしながら地域課題の解決と魅力の向上を図り、市民がより魅力あるまちづくりを実感できるよう各施策に取り組んでください。

最後に、本年の十二支は、午、干支では丙午です。「丙」は情熱や強い意志を、「午」もまた力強さや行動力を象徴しており、この2つが組み合わさった本年は、疾駆する馬のごとく、「強い意志をもって行動する」という年にあたります。

職員一人ひとりが、市政運営の当事者として、様々な施策を自分事として行動し、新しい視点で事務を進めていただくとともに、心と体の健康には十分留意していただき、この一年が皆様にとって幸多き年となりますこと、そして本市のさらなる発展を祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

令和8年1月5日

木津川市長 谷口 雄一